

# 富士山静岡空港の収支試算結果

別紙

## I パターン1（空港管理運営に係る収支）

### 1 キャッシュフローベース（県決算ベース）の収支 （単位：千円）

区 分	平成 24 年度 a	平成 23 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収入	139,321	153,254	△13,933	△9.1%
支出	677,481	684,693	△7,212	△1.1%
収支	△538,160	△531,439	△6,721	△1.3%

収支増減の主な要因：支出は基本施設等の管理費や静岡空港管理事務所職員の人件費の削減により減少したが、収入は国内線の減便や運休に伴い着陸料収入が減少したことなどにより、収支は約7百万円、対前年度比1.3%悪化した。

### 2 企業会計の考え方を取り入れた収支

できる限り企業会計に近いものとして収支の状況を明らかにするため、平成25年3月の着陸料等収入は平成24年度収入とするなど、発生主義の観点に立って収支を算出している。

（単位：千円）

区 分	平成 24 年度 a	平成 23 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
営業収益＋営業外収益	139,871	145,475	△5,604	△3.9%
営業費用＋営業外費用	677,481	679,128	△1,647	△0.2%
経常損益	△537,610	△533,653	△3,957	△0.7%

経常損益増減の主な要因：費用は基本施設等の管理費や静岡空港管理事務所職員の人件費の削減により減少したが、国内線の減便や運休に伴い着陸料収入が減少したことなどにより、収支は約4百万円、対前年度比0.7%悪化した。

## II パターン2（空港管理運営及び空港整備に係る収支）

### 1 キャッシュフローベースの収支

空港管理運営に係る収入・支出に、空港整備に伴う収入（国庫補助金、地方交付税相当額）及び支出（空港整備事業費、借入金償還金）を加えたキャッシュフローベース（県決算ベース）の収支を算出している。

（単位：千円）

区 分	平成 24 年度 a	平成 23 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収入	447,599	557,738	△110,139	△19.7%
支出	1,916,956	2,346,025	△429,069	△18.3%
収支	△1,469,357	△1,788,287	318,930	17.8%

収支増減の主な要因：空港整備事業に係る補助金・交付金収入が減少したが、支出は西側駐機場整備の完了（平成24年3月供用開始）に伴い空港整備事業費が大幅に減少し、収支は約3億1千9百万円、対前年度比17.8%改善した。

### 2 企業会計の考え方を取り入れた収支

空港は道路や港湾といった利潤を追求する一般企業とその性格は異なるものの、空港施設を企業が運営したとすればどの様な収支となるかといった視点で分析し、その収支を算出している。

（単位：千円）

区 分	平成 24 年度 a	平成 23 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
営業収益＋営業外収益	212,626	222,531	△9,905	△4.5%
営業費用＋営業外費用	1,941,798	1,919,993	21,805	1.1%
経常損益	△1,729,172	△1,697,462	△31,710	△1.9%

経常損益増減の主な要因：国内線の減便や運休に伴い着陸料等収入が減少し、費用である減価償却費が増加（主に西側駐機場整備の減価償却費）したことなどにより、収支は約3千2百万円、対前年度比1.9%悪化した。